

## 指定管理者による公の施設の管理状況評価（令和4年度分）

施設	名称	いまいずみ児童館
	所在地	栃木市今泉町1丁目2番7号
	施設内容	児童厚生施設
指定管理者	名称	株式会社メディカルフィットネスとちの木
	所在地	栃木市野中町553
	主な業務内容	栃木市いまいずみ児童館の管理運営

## (1) 平等利用の確保とサービス向上の取組み

評価要素	①	施設の設置目的や特性に基づいた施設運営の基本方針が明文化され、職員が適切に理解しているか
	②	施設予約や利用方法等について、市民の誰もが利用しやすい利便性と平等性確保の配慮がなされているか
	③	アンケート調査等により、利用者等の意見を把握し、運営に反映させる取組みを行っているか
	④	利用者等からの苦情や意見などに対し、適切な取組みを行っているか

管理状況評価指標	指標名	計画値	実績値
	基本方針研修・PASS理念等研修	年4回	年6回
	利用案内掲示数	5箇所	7箇所
	利用者アンケート数	100件	101件
	アンケート意見反映数	5件	7件
	利用者満足率	80%	85%

評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	25	I	1.0	25	I	1.0	25

指定管理者コメント	①	児童福祉法に基づいた施設運営の基本方針を明文化し、事務所内に掲示しました。年6回の基本方針研修・PASS理念等の研修を年6回実施したほか、朝礼を活用し、事業計画、関連規定等について職員への周知と理解を図りました。
	②	利便性の確保への取組みとして、イベントや利用方法等についての案内を館内7か所に掲示し、初めての方でも利用しやすい雰囲気づくりに努めました。また、掲示物は児童館に関するものだけでなく複合施設や避難所に関する内容も取り入れ、複数の役割を担う当施設全体の周知を図りました。また、平等性の確保への取組みとして接遇研修を実施し、職員のホスピタリティの向上を図るとともに、全ての利用者様への公平公正な接遇に努めました。
	③	利用者のアンケート調査から7件、そのほかイベント参加者のアンケートや会話、意見箱から利用者の意見収集に努め、合計24件の意見反映を行いました（利用者アンケート：7件、参加者アンケート：10件、会話：7件）。また今年度から新たに「リクエストボックス」を設置し、利用者の要望を把握しやすい環境づくりに取り組みました。
	④	収集した意見等は内容を確認し、職員間で情報を共有しました。また要望や苦情の対応について研修を行い、早期解決と職員対応による苦情の深刻化・長期化の防止を図りました。今年度は大きな苦情はなく、また意見から苦情に発展するケースはありませんでした。

施設所管課コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に理解し、職員の努力により利用者から感染者を出すことなく適正な運営が実施できたものと思われる。</li> <li>施設の設置目的、運営方針について、毎日朝礼において取り上げ職員の浸透を図り運営していることもあり、利用者からの満足度及び意見箱への意見にも現れているものと思われる。今後も設置目的等を理解していただきながら運営に当たっていただきたい。</li> <li>アンケートや利用者との会話のほかにもリクエストボックスを設置し、施設利用者等からの意見等を積極的に聴く姿勢と体制ができています。今年度に大きな苦情や意見から苦情に発展するケースがなかったことは、日頃から利用者からの意見を運営に取り入れていることや接遇研修を通じてホスピタリティの向上を図っていることが要因であると考えられる。</li> </ul>
-----------	---

(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み							
評価要素	①	施設の設置目的に基づいた事業計画通りに管理運営をしているか					
	②	広報活動等（広報紙、ケーブルTV、ホームページ、SNS等）による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか					
	③	開館時間の延長及び新規事業等による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか					
	④	地域住民や関係団体等との連携や協働による事業等、利用者や地域住民の満足度を高める取組みを行っているか					
管理状況評価指標	指標名		計画値		実績値		
	利用者数		7,100人		7,877人		
	ホームページ更新回数		12回		13回		
	じどうかんだより発行回数		12回		13回		
	新規事業数		5事業		6事業		
	地域・関係団体等との協働事業回数		13回		20回		
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	20	I	1.0	20	I	1.0	20
指定管理者コメント	<p>①今年度は新型コロナによる臨時休館がなかったため、計画に沿った管理運営を行うことが出来ました。一部の事業で中止や延期があったものの、計画に追加して新たに事業を実施することで、施設の設置目的に合致した事業の開催数は102回となりました。これにより年間イベント参加者数は1,566人（昨年度比115%）であったことから、イベント参加者数の増加が利用者計画値達成に大きく貢献したと考えられます。</p> <p>②広報とちぎやじどうかんだより、ホームページの他にSNSを活用し情報発信を行いました。今年度の新たな取り組みとして、じどうかんだよりやホームページなどを活用した広報活動において、計画に追加し特別号を発行・発信することで、新しく購入した玩具やイベントの紹介などを行い、新規利用者の増加と当施設の周知を図りました。</p> <p>③新規事業は計画に掲げた5事業のうち3事業を行ったほか、新たに3事業を追加し、合計6事業を実施しました。また、こどもの日の終日開館に加え、祝日の一時開館を行い「まちのおんがくやさんコンサート」を開催しました。</p> <p>④いまいずみ児童館を拠点として活動するチャレンジ母親クラブをはじめ、合計6団体と協働事業を行いました。昨年度より多くの団体と連携することで、自主開催ではできない各団体の魅力を取り入れた事業を展開し、利用者満足度の向上を図りました。</p>						
施設所管課コメント	<p>・令和4年度は新型コロナによる影響が前年度よりは少なかったことから、臨時休館がなく、計画に基づいた運営ができたとともに、積極的に新規事業を行い、イベントの周知方法にも工夫されていることにより、施設利用者数が計画を大きく上回ったものと考えられる。次年度は新型コロナに係る規制も緩和され、更なる利用者の増が見込まれると思われるので、引き続き、質の高い運営に心がけ、利用者の満足度を高める取組をお願いしたい。</p> <p>・多様な団体と協働事業を実施することにより、自主開催ではできない各団体の魅力を取り入れた事業が展開できている。多様な団体と連携して事業を行うことは、児童の健全育成はもちろんであるが、職員間の交流や質の向上につながることから、引き続きこのような取組をお願いしたい。</p>						

(3) 施設経費の削減の取組み							
評価要素	①	指定管理料、利用料金等の収支手続について、適切で透明性の高い管理をしているか					
	②	サービスの質を確保した経費削減の取組みを行っているか					
	③	清掃、警備、保守点検など、業務の一部委託等をする場合、複数業者からの見積合わせなど、経費削減等に考慮して適切に行っているか					
	④	施設、備品等の管理について、適切に維持管理し、省エネ、省資源、環境配慮物品の購入など環境への配慮を適切に行っているか					
管理状況評価指標	指標名		計画値	実績値			
	本社及び税務会計事務所によるチェック数		4回	16回			
	購入品見積もり合わせ		5件	6件			
	設備・備品更新数		5回	7回			
	廃棄物の再利用		10回	21回			
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	15	I	1.0	15	I	1.0	15
指定管理者コメント	<p>①指定管理料の収支手続については、四半期毎の財務委員会に加え、専任の担当者と毎月の収支及び予算状況の確認を実施し、税理士の指導・助言のもと適切で透明性の高い管理を行いました。</p> <p>②無駄のない空調提供として、使用している空間としていない空間を明確にする省エネ活動を実施しました。また、最大使用電力を抑えることで効果的に電気料金の削減が可能となることを全スタッフに周知し、その取り組みとして、安全性と快適性を維持した施設全体の空調管理を行いました。</p> <p>③外部委託は当初計画2件のうち、屋外害虫駆除を自前で実施し、委託経費を削減しました。その他に職員による小破修繕（4件）とエアコン室内機のクリーニング（年2回）、児童公園の緑地管理（11回）を実施しました。また、備品購入に当たり6件の見積合わせを行い、経費削減に努めました。</p> <p>④施設や備品等の各種点検を実施し、状態に応じた必要な修繕・手入れ等を行いました。良好な状態の維持に努め、備品については備品調書により適切に管理しました。備品の更新はトランポリンの更新を含め7件行いました。環境配慮への取り組みとして、行事工作物材料等は廃棄物を再利用し、購入備品は環境ラベル表示品を優先しました。</p>						
施設所管課コメント	<p>・本社及び税務会計事務所によるチェック回数を大きく増やしたことにより、誤りのない適正な財務管理が行われていることが伺える。</p> <p>・廃棄物の再利用の回数が計画値の倍以上行われていることから、施設経費の節減について、高い意識を持ちながら運営がなされている。今後も経費の節減と利用者の満足度を満たすことのできる運営に期待したい。</p>						

(4) 施設の管理を安定して行うための取組み							
評価要素	①	施設の適正管理に必要な職員の配置及び管理運営体制が確保されているか					
	②	職員の望ましい勤務形態及び育成指導、研修等が十分に確保されているか					
	③	職員の福利厚生は充実しているか					
	④	各種税金や社会保険料等は適切に納められているか					
	⑤	団体の財政状況等は健全であるか <別紙参照>					
管理状況評価指標	指標名		計画値		実績値		
	人員配置数		7名		6名		
	館長会議出席		毎回		毎回		
	職員研修会実施回数		年12回		年21回		
	健康保険料・各種税金納付率		100%		100%		
	経営収支比率		100%		100%		
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	20	Ⅱ	0.8	16	Ⅱ	0.8	16
指定管理者コメント	<p>①防火管理者を配置し、施設を安全に管理しました。また保育士、幼稚園教諭等の資格所持者を常時2名以上配置しました。新型コロナウイルス感染縮小を見込み、当初は7名の人員配置を予定していましたが、引き続き感染対策を講じながらの運営であったため、6名体制としました。必要人員を効率よく配置し、結果として昨年度より人件費の負担を軽減することとなりました。また、職員は毎朝の検温と体調チェック、予防衛生を徹底し、欠員により適正管理の低下を招かぬよう努めました。万が一感染が確認された場合には作成したマニュアルに沿って、本社より人員を補充する体制を整えました。また館長会議には毎回出席し、所管課・各施設との連携と情報共有を図りました。</p> <p>②労働基準法を遵守した適切な勤務体制下で、管理運営を行いました。育成指導では、年間計画に沿って職員研修会を実施しました。今年度は子供体操教室における安全指導を目的として、計画に子供体操研修会を実施し、新人スタッフの育成強化に努めました。また外部研修には7回（8名）参加し、児童福祉分野における職員の資質向上と救急対応のスキルアップを図りました。このほか、職場環境改善に関する外部セミナーに参加した担当者による（職員を対象とした）ハラスメント等の教育を実施しました。</p> <p>③法定福利厚生のほか、健康診断、栃木県社会保険協会・栃木市勤労者福祉サービスセンター（ウェルワークとちぎ）への加入補助、関係関連施設の利用補助・資格取得の補助などを行い、勤労意欲の向上を図りました。</p> <p>④専任の担当者が社会保険労務士や税理士の助言・指導を得ながら、社会保険料等の納付や、国・県市への納税などを適切に行いました。</p> <p>⑤令和4年度の法人決算では、経常収支比率は100%超となる見込みです。</p>						
	施設所管課コメント	<p>・適正な人員配置に基づき運営が実施されており、新型コロナ対策を講じながら、人件費の抑制もできており、適正な管理運営が行われているものと思われる。館長会議にも毎回参加しており、児童館の職員間の情報共有が適切にできていた。</p> <p>・令和3年度よりも新型コロナによる影響は少なくなり、職員の資質向上のため、多くの職員研修を受講されており、事業に対する意欲が伺える。次年度については、新型コロナによる規制も緩和され利用者の増が見込まれることから、研修で得た知識や経験を活かしていただきたい。</p>					

(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み						
評価要素	①	① 日常の安全点検及び法定点検等の安全対策を行っているか				
	②	② 緊急時の危機管理体制等が確立されているか				
	③	③ 避難訓練や防災訓練を適切に行っているか				
	④	④ 具体的な個人情報保護対策を行っているか				
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	定期安全点検実施回数			12回	16回	
	児童安全共済制度加入			100%	100%	
	消防訓練実施回数			2回	2回	
	安全講習会実施回数			年2回	年4回	
	個人情報保護講習会実施回数			年1回	年2回	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	Ⅱ	0.8	16	Ⅱ	0.8
指定管理者コメント	<p>①安全管理マニュアルに基づいたチェック表に沿って日常点検を実施し、施設・設備の安全性を確保しました。また日常点検では補うことができない箇所については、定期点検、法定点検を実施し、状態を把握することで、改善箇所の早期発見と早期対応を図りました。このほか四半期毎に施設点検を行い、担当課に報告しました。</p> <p>②緊急連絡系統図を事務所内に掲示し、所管課、職員間などの連絡体制を明確にし、緊急時において迅速な危機管理体制をつくれるよう、定期的な確認を行ったほか、危機管理に関する各種マニュアルに沿って、職員研修会を実施しました。今年度は新たに災害時の職員初動研修を計画に加え、緊急時における研修を重点的に行いました。当施設は避難場所及び指定緊急避難所であることから、災害発生時などにおける当施設の役割や施設特有のライフラインの供給体制などについて理解を深めました。</p> <p>③消防計画に沿って消防総合訓練を実施したほか、通報訓練を2回実施しました。また、安全講習会を年4回行い、救急車の要請から救急対応までの流れや行動の確認、AEDを使用した心肺蘇生法などについて、緊急時を想定した訓練を行いました。このほか、新人スタッフを含めた全職員が最新の知識と技術をもって救急対応ができるよう、栃木市消防署協力のもと、外部研修として応急手当講習を受講しました。</p> <p>④栃木市個人情報保護条例及び当社の個人情報保護規定に基づき、職員研修を実施しました。現場に反映できる工夫として、日常業務での個人情報の管理・取り扱いについて注意する点などの具体例を取り上げ、その対応について職員間で情報を共有しました。個人情報保護関連資料を含めた各種マニュアルは、全職員がいつでも確認できる環境を整えており、保存の必要がなくなった関係書類は裁断処理を行い、確実に破棄しました。</p>					
施設所管課コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設管理については、適正に行われているものと思われます。</li> <li>・安全講習会の実施回数の増加や当初計画していなかった応急手当講習の受講など、利用者が安心して利用できる体制が整備されていることが伺える。</li> <li>・今後も突然の地震等の災害に対応できるように訓練等を通じて万全の体制を整えていただきたい。次年度においては新型コロナによる規制は緩和されるものの、施設の性質上、引き続き感染対策は必要であることから、情報収集等を含め安全対策に万全な対応をお願いしたい。</li> </ul>					

評価結果	配点	第1次評価点 (指定管理者評価)	第2次評価点 (施設所管課評価)	第3次評価点 (選定委員会評価)
(1) 平等利用の確保とサービス向上の取組み	25	25	25	24
(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み	20	20	20	20
(3) 施設経費の削減の取組み	15	15	15	12.8
(4) 施設の管理を安定して行うための取組み	20	16	16	17.6
(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み	20	16	16	17.6
評価点合計	100	92	92	92
総合評価		A (優)	A (優)	A (優)

### 第3次評価（選定委員会評価）

#### 選定委員会コメント

- 平等利用の確保とサービス向上の取組み
  - ・コロナ禍に対応した管理運営が行われている。
  - ・アンケートの実施、案内表示も多く設置し意見を反映するよう努めている点が評価出来る。
- 施設の効用を最大限に発揮する取組み
  - ・地域関係団体等との協働事業を積極的に行っている点が評価出来る。
- 施設経費の削減の取組み
  - ・泉寿園のほうに光熱費が振られているが、光熱費については施設ごとに按分してもらいたい。
  - ・環境ラベル表示品を優先しながら廃棄物の再利用や委託経費の削減に努めている点が評価出来る。
- 施設の管理を安定して行うための取組み
  - ・職員研修を積極的に行っている点が評価出来る。
- 施設の安全対策、危機管理体制の取組み
  - ・防犯カメラを設置しているが1Fと2Fの境がよくわからない。
- その他
  - ・泉寿園と共通になるが、2次評価について、施設所管課ごとに評価にバラつきがあるように見える。もちろん、施設毎の特色が指標に反映される項目は評価が異なっても構わないが、安全管理の部分など、指標もほぼ同じにも関わらず、評価にズレが有る箇所は所管課間で意見交換などしてもらいたい。

## (4) 施設の管理を安定して行うための取組み

《 別紙 》

## ⑤ 団体の財政状況等は健全であるか

直近3カ年の情報を記入してください。

決算年次	令和2年3月期	令和3年3月期	令和4年3月期
資産総額	103,247,748	82,576,945	75,416,940
売上高	355,400,002	298,840,799	321,257,852
経常利益	1,834,088	△ 14,149,418	777,958
当期利益	1,668,688	△ 14,314,818	612,558
経常収支比率	100.5%	95.6%	100.2%

## ※ 経常収支比率について

本指標は、会社の資金繰りの実態を示す指標です。

この数値が100%未満であると銀行借入などをしなければ営業活動ができなくなるといわれているものであり、経常損失が生じていることを意味します。

決算年次	令和2年3月期	令和3年3月期	令和4年3月期
経常費用	355,670,911	321,829,294	327,395,680
経常収益	357,504,999	307,679,876	328,173,638
経常収支比率	100.52%	95.60%	100.24%

○経常収益（営業収益＋営業外収益）÷経常費用（営業費用＋営業外費用）×100で求めます。

## 指定管理者コメント

事業報告時点では令和5年3月期の法人決算確定前になりますが、経常利益・経常収支比率とも昨年度を超える見込みとなっています。コロナウィルス感染対策も緩和が進む中、経済活動や日常生活にも変化が見られつつあり、今後の管理運営においては一層の利用回復と事業拡充に取り組む所存です。